

由比・蒲原町東海道沿線の地学巡検：中部支部巡検報告

著者	久保田 実
雑誌名	静岡地学
巻	63
ページ	33-34
発行年	1991-06-16
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00025402

由比・蒲原町東海道沿線の地学巡検

——中部支部巡検報告——

久保田 実*

中部支部巡検会が平成 2 年 12 月 2 日(日)に行われた。マイカー方式により、9 時由比駅に集合し、簡単な顔合わせをした後、国道 1 号線を東進～由比川～大門～坂下～神沢～堰沢～城山等を回って午後 1 時頃解散した。案内をお願いした長島 昭会員を含め 30 名が参加した。

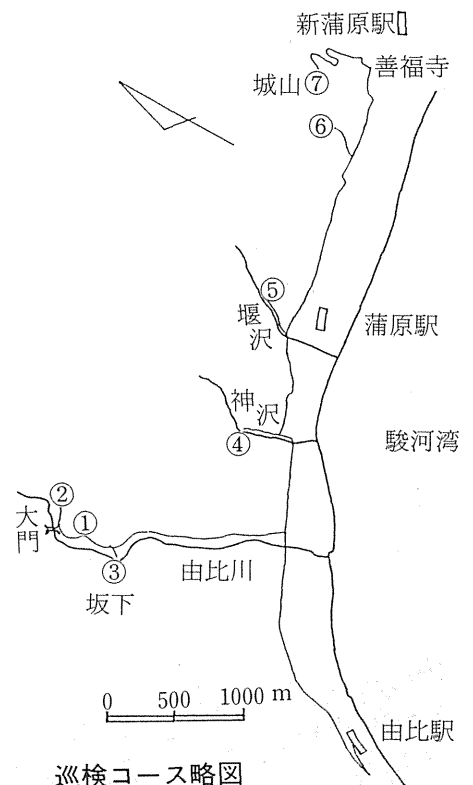
1. 浜石岳累層

由比川を大門まで十数分上り、道路の右側のみかん畑に入山逆断層の露頭をさがした (①)。

西側は凝灰質で 1～3 cm の円礫をふくむ細粒砂岩や粗粒砂岩主体の浜石岳礫層である。東側は、2～5 cm の角のとれた礫を含み、明瞭な層理を示す礫層主体の蒲原礫層である。蒲原礫層は浜石岳礫層を不整合におおっており、この付近では、入山逆断層で接している。この両層の境ははっきりしないが、入山逆断層の走向はほぼ南北であるとの説明があった。

ここから 300 m ほど上流の室野橋手前には、蒲原礫層と断層破碎帯がみられた (②)。

また、室野橋から 600 m ほど戻ったカーブの手前を右に入った由比川でも入山逆断層の露頭をさがした。泥質の基質中に 1 cm 位の礫を含む層とブロック状の凝灰質層との間に断層があるとの説明があった (③)。



巡検コース略図

2. 蒲原礫層

神沢を上った蒲原町老人福祉センターの裏には山の半分ほどが削られた採石場があった (④)。白色の凝灰質砂をマトリックスとし、淘汰の良い細～中礫を主体とする蒲原礫層である。礫はチャート、頁岩、緑色砂岩、閃緑岩などから構成されている。いたるところに雨谷が見られ、侵食されやすい地層であることがわかる。

3. 堰沢岩脈群

東名高速道路のガード下を通り、堰沢にそって 500 m ほどゆくと細かい柱状節理が発達している灰

*静岡雙葉高等学校

白色の岩脈があった(⑤)。この岩脈は、曹長石、普通輝石、紫蘇輝石等を含む角閃安山岩からなり、蒲原礫層を南西から北東に貫いているという。岩脈のすぐ下の沢には、灰色に変質した斜長石を含む安山岩中に濃緑色の角閃石があった。角閃石の大きさは、3 cm 位であったが、まれに5 cm を超えるものも見つまっているという。沢に降りてハンマーで岩を砕き、形の良い結晶を数個おみやげとして持ち帰った。

堰沢から1,000 m 位東側の東名高速道路の橋脚下で城山角閃安山岩を見た(⑥)。黄灰色で角閃石、輝石を含むこの岩体は、蒲原礫層に貫入しているが、マグマが地下から上がってくる際に城山砂岩層を頭部にのせてできたものであるという。

4. 城山砂岩層

蒲原町善福寺より東名のトンネルを2つ抜けた城山の空堀に化石を見つけた(⑦)。ハンマーでは容易に割れない程硬い灰色の凝灰質粗粒砂岩中に15 cm 程のホタテガイ、10 cm 程のウニ、フスマガイ等多数の貝化石をみつけ、採取できた。数ミリ～1 cm の緑色の礫を含む層に多く含まれる貝化石は、南側で密集しており、北側にゆくほど少ない。この城山は、蒲原丘陵から孤立した城山砂岩層からなる小山を要塞化した戦国時代の蒲原城址である。今回、蒲原町が本郭の空堀を公園化するために表層土を除いていたので、以前では見ることはできなかった化石層を確認できたのは幸運であった。

好天に恵まれた紅葉のきれいな山を歩いて角閃石の巨晶や貝化石のおみやげを採取できた楽しい巡検会であった。

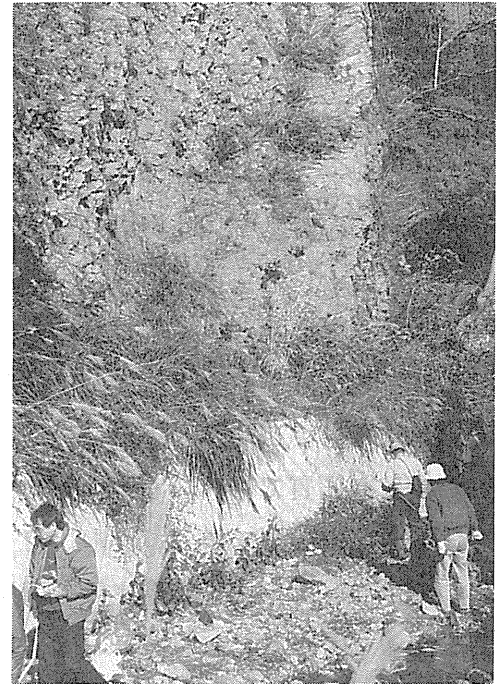


写真1 堰沢で角閃石を探す参加者

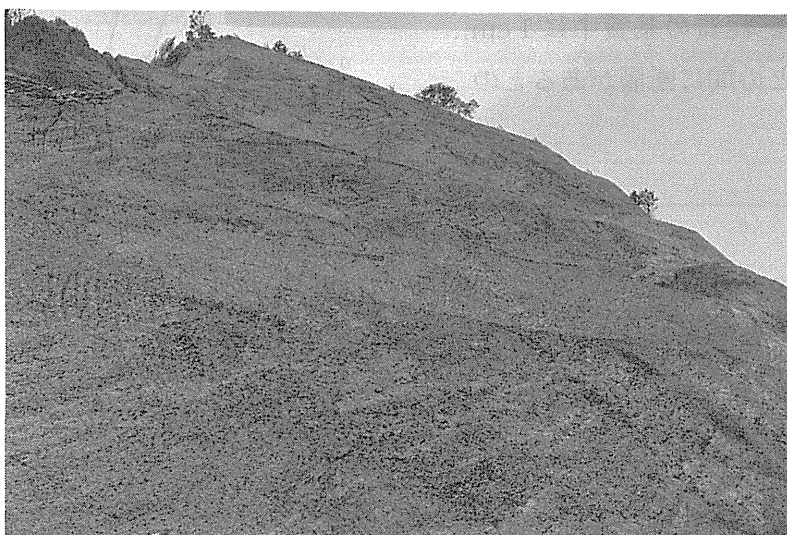


写真2 神沢の採石場にみられる蒲原礫層の露頭



写真3 城山砂岩層中の貝化石
(ホタテ貝)